



本のひらば



195号



2017年

8月発行

宇佐市民図書館

戦争と食べもの
今から70年くらい前、日本は戦争をしていました。当時は「戦争に勝つ」ことが大切なことでした。しかし、だんだんと激しくなる戦争によって、人々の暮らしは苦しくなっていました。1940(昭和15)年、政府は人々に「節米」をよびかけ、お米にかわる食べもの「代用食」が色々と考えだされました。

【すいとん】

うどん粉(小麦粉)をねってだんごにし、大根の葉やかぼちゃの葉、くず野菜などを具とした汁で煮た食べもの。食糧難がつづいた終戦後も、人々の貴重な食べものでした。

【さつまいも】

さつまいもは、小さく切ってご飯にたきこんだり、煮て代用食としていました。葉や茎はゆでておひたしにしたり、みそ汁の具にして食べていました。

【野草や小動物】

アジア・太平洋戦争の末期になると、食料不足はいっそう深刻になり、道ばたにはえている野草(ノビル、オオバコ、ヨモギ、シロツメクサ)や小動物(カエル、バッタ、イナゴ、タニシ)も食べものになりました。これらの食材は煮たり、焼いたり、乾燥させて粉にしたりして食べられていました。

『戦争とくらしの事典』(ポプラ社)より引用

8月の特集

戦争・平和

『かわいそうなぞう』

土家由岐雄

岩崎京子

『火垂るの墓』

野坂昭如

こやま峰子

『二十四の瞳』

壺井栄

宮良作

『せかいいちうつくしいぼくの村』

小林豊

児玉辰春

『地雷ではなく花をください』

葉祥明

あまんきみこ

『ひろしまのピカ』

丸木俊

日野多香子

『飛べ!千羽づる』

手島悠介

松谷みよ子

『やさしい木曾馬』

庄野英二

坂口便

『紅玉』

後藤竜二

高木敏子

『おにいちゃん、死んじゃった』

谷川俊太郎

たかはしひろゆき

『かあさんのうた』

大野允子

宗田理

『八月がくるたびに』

おおえひで

ビビ・デュモン・タック

『ムッちゃん』

中川正文

(このほかにもあります)

『むらさき花だいこん』

大門高子

家の中でゆっくりすごすのもいいですが、せっかくの休みにいろいろな場所に遊びに行ってみるのも楽しいかも知れません。

うすぐしているでしょうか?
長いお休みをみなさんはどう過ごしているでしょうか?
八月は夏休みまっさかり!

今月の夢号の特集は
『とびだせつ!』です。

《夢だより》



宇佐市民図書館

〒879-0453 宇佐市大字上田 1017-1

電話/0978-33-4600

FAX/0978-33-4679



『少年の木』

マイケル・フォアマン作 より

少年がそれをみつけたのは、夜どおし降つた雨のあがつたある朝のことでした。がれきの山の片すみに、ちいさな緑の葉が土から顔を出して、太陽の光にむかってのびはじめていたのです。

少年はその葉がおしつぶされないように、まわりのがれきをのけてやりました。それが花のか雑草なのか、少年にはわかりませんでしたが、けんめいに生きようとしていることだけは、わかりました。

少年があきかんを見まわすと、あきかんがころがつていて、なかに雨水がすこしたまつていました。

少年はあきかんをひろつてきて、なかの水を緑の葉にかけてあげました。

「しつかりのんでね」少年はそつと言葉をかけました。

太陽がじりじりとりつけるので、少年はふるびた布袋とはりがねをつかつて、日よけをつくつてあげました。

谷間を流れる小川のひんやりし

少年が遊んでいた街は、すべての家が破壊されてがれきの山になり、まわりには鉄条網がはりめぐらされていました。夏の日あきかんがころがつていて、なかに雨水がすこしたまつていました。少年があきかんを見まわすと、あきかんがころがつていて、なかに雨水がすこしたまつていました。

少年は緑の木が広がりだしたところを「秘密の庭」にして毎日毎日、水やりをつづけました。

緑の木はつるになつてどんどんのびて葉をしげらせ、鉄条網の高さまでとどくようになりました。

それがブドウの木であること

は、いまでは少年にもわかりました。ブドウの木は鉄条網をつたつて大きく広がり、日陰をつくりました。日陰にまもられたやわらかい根はしつかり水を吸い、新しい枝がつぎつぎに出てきました。

少年がそれをみつけたのは、夜どおし降つた雨のあがつたある朝のことでした。がれきの山の片すみに、ちいさな緑の葉が土から顔を出して、太陽の光にむかってのびはじめていたのです。

少年はその葉がおしつぶされないように、まわりのがれきをのけてやりました。それが花のか雑草なのか、少年にはわかりませんでしたが、けんめいに生きようとしていることだけは、わかりました。

たくさんの小鳥や蝶が、羽根に草花の種や花粉をつけて飛んできました。少年の庭は広がるばかり。もう「秘密の庭」ではなくなりました。友だちがやつてきて木陰で遊びはじめました。そこは子どもたちの緑の遊園地になりました。

ところがある日、兵隊たちが

やつてきて、ブドウの木も草花もすべて引きぬいてしまったのです。兵隊たちはブドウの木を鉄条網のみこうの溝のなかに

ほうりこんでしまいました。少年は悲しくて悲しくて、胸がはりきそうでした。

このつづきは、本を読んで、たしかめてみてください。